

完成までの流れ見て

バイオリン製作家が展示会

来月から三朝

平成 24. 5. 17

倉吉市清谷のバイオリン製作家、岡野壮人の製作過程を広く知っ



てもらったため三朝町三朝のみささ美術館で展示会を開く。実際に各工程の現物を並べ、バイオリンが出来上がるまでの流れが一目で分かるよう工夫。未完成の作品を中心にした展示は珍しく、岡野さんは「ぜひバイオリンの魅力に触れてほしい」

バイオリンの製作過程を展示する岡野さん16日、倉吉市清谷の工房

と話している。

岡野さんは高校卒業後、日本人第1号マイスターの無量塔蔵六さんとドイツ人製作家に師事して修業を積み、製作や修復技術を身に付けた。レプリカ専門の製作家を目指して3年前に帰省して実家に工房「ヴァイオリンアトリエ オカノ」を構え、昨年には中国地方初の製作学校を開校して後進の指導に当たっている。

展示会は「弦楽器を多くの人たちに認知してもらいたい」と企画。板張り、ニス塗り、研磨、弦張りなど、一つのバイオリンが完成し

至るまでの様子が分かるよう各段階の現物を並べる。岡野さんが専門とするレプリカや製作道具、ニスの原料、弓に使う馬の毛なども見せよう。

ピオラ奏者の生原幸太さん(大山町)と協力し、演奏会も開く。岡野さんは「バイオリンのことを知り、製作の魅力を感じてもらえれば、音の違いも楽しんでほしい」としている。

展示・演奏会は6月1日から7月23日まで。演奏会は計11回。期間中は町内の保育園児を対象にした製作体験も予定している。